

山筆

第33号 / 2002年12月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/西岡 恒憲 (41回)

〒251-0875 藤沢市本藤沢7-3-7 山中和正(24回)気付 事務局長 金澤由里(55回) TEL 0466-82-3244 FAX 0466-82-2445
E-mail : tosako-kantoshibu@mail.ne.jp 関東支部ホームページ : <http://www2u.biglobe.ne.jp/~tsuruwa/kantosibu.htm>



一時里帰り中の浅井和子ガーナ大使。母校の校長室で高3生と。池上校長先生から花束が贈呈された。

土佐高魂の発露

堀見淳二(42回生)

秋も深まり、過ごし易い季節となった。猛暑の日々の終りを告げるかのように、風雨を伴って台風が日本列島を縦断していった。二一年も終ろうとしている。今年もいろいろな事があった。と感慨にふけるのはまだ早いかもしれない。しかしいろんな事が走馬燈のように頭の中を駆けぬけてゆく。その中でも私にとって今年程「土佐高」即ち出身校を意識した年はなかったのではないかと思う。同窓会の幹事役、世代は違っているも本心に力を合わせて、一つの会合をやりあげた喜び。無償でみんなの為に働く喜びを知った日々。仕事上何のつながりもない年代の違う先輩、後輩が一つになり、一つの作業を行い、一つの目標に向かって、力を集約してゆく。それぞれの持味を最大限に出し、それぞれの得意分野に力を注ぐ。まさにこれが「土佐高魂」ではないかと思識した。多感な中学時代、高校時代、6年間を、利害ではなく、「青春」として共に過した時代が蘇って来た。その中でも特筆すべき事は、37回生の弘瀬さんのことだった。なんの仕事のつながりもなく、お顔さえご存じなかった人も多かったに違いない。普通ならそのまま知らずに終わった事が、土佐高という一点で、多くの人の厚志により、義援金となった。残念ながらお亡くなりになってしまったが、その支えあいの精神こそ「土佐高魂」の発露ではなかったかと思つた。

私も少しは人生を生きて来て、人の人生には本当に山あり、谷ありだなど少しは実感できる年代になって来た。いい時もあれば、悪い時も、楽しい時もあれば、苦しい時もある。「土佐高魂」とは、谷の時、悪い時、苦しい時に思いつ切り發揮される精神ではないだろうか。またそつあるべきだと思つている。

42回生の岩井君が生体肝移植を受けようとする時、自然発生的に励ます会が出来、実に短期間に多額の厚志が集った。決して景気は良くなく皆事情のある中での出費であつたと思う。しかしその仲間を思つ気持ちは本当に頭の下がる思いである。私共の共通点は、「青春」を土佐中・高で過したという点である。その一点がこれだけの仲間を創り、お互いに共感出来る環境を育ててくれた。その「土佐高魂」を支え続けてくれた諸先輩には本当に感謝したい。そして我々はその「土佐高魂」を発露し続けてゆきたいし、また後輩もその伝統を守り続けていってほしい。最後には私の好きな俳人に山頭火が居る。厳しい社会状況だけど、人生には青々としげる森がある事を信じて

わけ入ってもわけ入っても青い山

土佐高同窓会関東支部

若手の会

開催される

坂本佳昭(7074回)
小松岳志(回)

平成14年10月6日土曜日
東京・広尾にある羽澤ガーデンにおいて、第1回OSAZON'S Party(土佐高校同窓会関東支部若手の会)が開かれまし

た。この会は、関東在住の若手同窓生の交流を深めようという趣旨で企画されたもので、70回生から77回生までの総勢90名に加え、宮地貫一同窓会関東支部長をはじめ約10名の諸先輩も来賓として参加されました。



パーティ開宴は、午後6時過ぎ。この日のために駆けつけてくれた来賓の方々のご紹介の後、準備委員会を代表して宮村円絵さん(76回生)が音頭をとって「乾杯！」。

ワイングラスを手に、関東支部初の試みである大学生・若手社会人による同窓会が始まりました。

参加した同窓生は、久しぶりに会った友達はもちろん、初めて会う先輩・後輩にもみな積極的に声をかけ仲良く話を楽しくくれました。「お、久しぶり。元気？」、「どんな仕事をしているんですか？」などといった声があちこちから聞こえてきました。企画者としては、当初、同じ回生同士で固まってしまい、あまり先輩・後輩や来賓の先輩方とお話をしてくれる方が少ないのではないかと危惧していたのですが、そんな心配は全く無用でした。多くの方が、土佐高生持ち前の積極性を全面に出して、縦横無尽にいろんな方と交流を深めて下さいました。学生は、自分の希望する職種に就いている先輩から話を聞いたり、社会人は、先輩に自分の就職のときの話をしてたりと、とても有意義な交流の機会となりました。来賓の方々もフットワークよく若手の中にとけ込んで下さり、来賓の方を中心とした話の輪がそこかしこにできてい



ました。今回の会場となつた羽澤ガーデンは、かつて満州鉄道のオーナーの邸宅だったそうで、当時の面影を残しつつ現代風にアレンジされた、オシャレで大人の雰囲気漂うスペースです。みんな、思い思いに、室内のゆつたりとしたソファアに腰掛けて談笑したり、外に出て少し涼しい秋風に吹かれながらのお酒を楽しんだり、友人と写真を撮ったりと、同窓会と会場の雰囲気を存分に満喫していました。ピュッフェ形式の料理は、サラダやパスエタ、肉料理、魚料理などバラエティーに富んだ内容で、ワイン・ビールなどは飲み放題おいしい料理とワインを楽しみつつ、若者同士の交流に花

が咲きました。楽しい時間が過ぎるのは早いもので、6時に開始したパーティの2時間の定刻はあっという間に過ぎました。お開きの際には、この同窓会で仲良くなつた先輩・後輩の間でメールアドレスや電話番号を交換したり、「また会おうね。」という声があちこちから聞こえてきました。こうして一次会は終了したものの、まだ帰りたくない人や時間に余裕のあった人で、羽澤ガーデンのバルームを貸し切つての二次会がスタートしました。25人くらいのアットホームな雰囲気、ゆつたりと昔の思い出話にひたるなか、歌手志望の西川久美子さん(75回生)がMiss the Eveningの他2曲をアカペラで披露して下さいました。という場面もありました。キャンドルライトが揺らめく部屋の中で、西川さんの美声が響き、とてもよい心地で聴き入っていました。そして11時過ぎに二次会もお開きとなりました。帰り際に、「普段の同窓会は顔を出していなくなつたけど、この同窓会は来てよかったです。」「とても楽しくてよかった。」という感想



を頂き、初めての試みが大成功に終わったことを実感して、企画者一同ほっとしました。振り返ってみれば、この企画がスタートしたのは、今年5月の同窓会関東支部総会後の二次会の時でした。「せっかく土佐高からたくさん東京に出て来ているのに、若い人同士で集まれる機会がないなんて、なんかもったいない。」「同じ回生同士の同窓会だけでなく、若手の回生横断的な同窓会があつてもいいんじゃない?」という、何気ない提案でした。その後、その時の二次会に参加していたメンバーを中心として構成する企画者で2回ほど集まって若手同窓会の立ち上げを実現させようと話し合いました。「何人く



「らい集まるだろう?」「どこかの会場でやるのか?」「お金はどれくらいがいいんだろう?」という感じで、初めての企画ということもあり、まったくの手探り状態で準備を進めてきました。

第1回の若手同窓会を催すにあたり、関東支部の名簿に載っていた四 人宛に葉書を出しました。葉書だけではなく、メールによる口コミで企画者の当初の予想をはるかに超える約90人もの方が参加してくれました。実は、会場の定員がいっぱいになり締め切りを過ぎて参加を表明された方には、残念ながら参加をお断りするほどの盛況で

した。会場の声や後日のメールでの感想によると、若手同窓会はかなり好評だったようです。来年以降も今年と同じ時期に若手同窓会を続けて行けたらと思いますので、来年以降もよろしく願っています。

未筆ながら、当日ご参加頂いた来賓の方々、卒業生の方々そして、多忙な中、事前及び当日の準備にお付き合いただいた企画者の方々、本当にありがとうございました。また来年、故郷を離れた東京の地でそれぞれの夢を追う土佐高の若人たちに再び会える日を心待ちにしています。

十人に聞きました



72回 千頭寛子 日本大学
大学に残って勉強しています。先輩たちの中にいるとすっかり年とったっていう気分



72回 尾崎礼奈 荻島商事
アパレル系の会社に勤めています。筆山の編集お手伝いできたらいいなうと思っています。



74回 山本修平 都立大学
卒業以来はじめて会う友達もいて、とても楽しいですね。研究者を目指しています。



74回 坂本佳昭 早稲田大学
共同通信に内定しました。写真記者で応募したんですが、編集記者に決まりラッキーでした。



75回 池田真由美 お茶ノ水女子大
この会の準備からお手伝いさせていただきました。とても勉強になりました。



75回 原由紀子 東京女子大
雑誌社に就職したいと考えています。競争が激しいようなので大変ですけど・・・。



75回 松下倫子 東京女子大
この夏のおさこい踊りに「ヨメ」の一員として参加しました。いい思い出でした。



76回 山崎寛子 早稲田大学
すばらしい会場です。こんなすてきな場所が都心にあるなんて驚きです。



76回 野崎緑 東京工科大学
全体の同窓会もいいですが、若手だけっていうのも気楽でいいですね。とても楽しいです。



76回 楠瀬陽子 早稲田大学
感激しています。こういう会なら何でも出てみたいと思っています。お料理もワインも最高。

関東支部活動報告

事務局長 金澤由里(55回生)

皆様こんにちは。一、二年も終わりに近づいて参りました。母校野球部は、今年も甲子園に行けずじまいで終わってしまい、ライバル校がとうとう全国制覇をしてしまいました。「出身県をなぜ応援しないのか?なぜ優勝を喜ばないのか?」と同僚に言われ、悔しい思いを致しました。そして来春も絶望。同窓生の楽しみはどこへ?という気持ちです。「わしの生きぢゅう間に甲子園へ行ってもらいたいのお。」と病床で語られていた弘瀬先輩は逝ってしまわれました。私の生きていた間にあと5回くらい行っていただきたいものです。

今年の楽しい出来事の一つに、『若手卒業生の会』第一回が開催されたことがあります(詳しくは特集ページ)。案内が「Tosa To's Party」としやれた名前になっていたのに、終わってみたら『若手卒業生の会』となっていたのは、私の残念に思うところ(数字を入れるのが先を見越してまずいとしても、おしゃ

れな店には似合わない会の名前)。真相は知りませんが、真面目なN先輩が修正したと私は推察しています。ところで、この『若手卒業生の会』はK先輩が提案されたものですが、『一木会』(第一木曜に飲む会)、『はちきん会』(女性卒業生の会)もK先輩が創めたものです。かつて、『三金会』(第三金曜に集まる会)などというのもありました。作つたらすうと抜け出して新しい会を作るのも、K先輩の得意技です。それはさておき、その他にも『筆山会』とか、『ハイク(ハイキング)の会』とか、挙げればきりがありませんが、事務局は、総会をベースにしてそれらの会の潤滑油になればいいなと考えております。何か企画があれば事務局までお知らせください。古典的でも現代的でもいいので、すてきなネーミングをお願いします。

総会は、6月に開催予定です。別途、ご案内致します。それから、筒井編集長のご労苦で関東支部ホームページは同窓会情報をもとより高知のことまで情報満載です。是非一度ホームページをご訪問ください。

母校だより

学校長 池上武雄(28回生)

長い間大変な努力と経費をかけて準備して参りました「第57回よさこい高知国体」、続いて多くのボランティアの協力のもと「よさこいピック高知」が開催されました。高知国体には、本校から競泳ほか5種目に10名の先生および生徒が選手として出場しました。また、開会式への吹奏楽部の参加をはじめ大勢の先生や生徒が競技役員、補助員として大会運営の為に活躍してくれました。

秋季大会の開会式は、10月26日午後、県民の切なる願いが届いたのが午前中の降つたりやんだりの雨模様から式典前演技の直前にはからりと晴れ上がり、本校代表として参加した森本教頭先生も「よかつた」と喜びの声でした。天皇杯にこだわりの声で、また、目出度いスタートではありました。今年度は関係で日程を早めて9月8日(日)快晴のもと恒例の第55回運動会が盛大に開催されました。自称日

本一を誇る大運動会だけに6組の櫓(ヤグラ)も余裕の出来上がりであり、運営も見事にスムーズに運んで、教職員・生徒全員のチームワークここにありと自画自賛できる出来映えであったと喜んでおります。

私学間の激しい入試競争の中で本校も各地で入試説明会を開催しております。本校での高校・中学それぞれの説明会のほか、県下各地の優秀な人材にチャレンジしていたたくよう今年度は、例年の中村のほか佐川、安芸でもはじめて開催、個人個人の進学相談に力点を置いた会として評価をいただけるものと考えております。成果を大いに期待しております。

今年度も引き続いて1月に高1修学旅行における東京でのコース別研修を実施する予定です。関東支部の皆様方には例年大変お世話様になり心から感謝申し上げておるところでございます。この研修は生徒は申すまでもなく保護者の皆様にも非常に好評をいただいております。将来の進路や生き方を考える貴重な経験となっており、今後この企画を充実させてゆきたいもの

と考えております。どうかより一層のご支援をお願い申し上げます。土佐中・高のホームページの再スタートにつきましてはお約束した2学期初からはかなり遅くなりましたが、11月初旬にはオープン予定でございます。ぜひご覧のうえ多くのご批評をいただきたいと思

います。最後に会員の皆様のおすすめのご健勝とご活躍、関東支部のご発展をお祈り申し上げます。ご報告とさせていただきます。

本部だより

幹事長 安岡範悦(39回生)

現在、本部では、百年委員会・TSSL委員会を同窓会として全面バックアップし、魅力ある土佐高づくりに協力すること。同窓会財政の強化改善に取り組み、さらに活性化すること。また、これらの遂行に当たっては、役員が積極的に意見を出し合い、仲良く協力して運営にあたること、を基本方針として活動を行っております。まず第1の百年委員会・TSSL委員会につきましても岡村・宮地両会

長の精力的なりーダーシップにより、去る7月9日、百年委員会の最終報告が理事会で承認されました。報告に基づいた具体策が学校を中心に練られ、実行に移される事になります。同窓会としまして

も出来る限りの協力を今後も致して参りたいと考えます。又、TSL委員会の審査委員としては先生方の外に32回森木将雄さん、45回山本志雄さんに加わって頂き、案件の審査が始まっております。学校でも百周年記念事業特別会計口座を設け寄付金募集と免税措置の準備がとられております。卒業周年記念など機会がございましてご協力頂ければと考えます。次に同窓会の財政強化・改善につきまして、会長が総会で申し上げましたように最終的には本部機構の再編、高知支部の創設などを検討する必要があると考えます。今後更なる規模の拡大が予測される組織に対応する為にも現執行部で具体策を練り提案させて頂きたいと考えております。

最後になりましたが、関東支部の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、ご報告とさせていただきます。

東海支部だより

静かな街、広島そして名古屋事務局長 南 毅一(37回生)

3年ぶりの広島だった。平成14年10月26日(土)広島支部総会に東海支部の代表として出席した。到着が少し早かったので駅前を散策した。ポツクリポツクリの厚底靴のオネエちゃんや、唇に白いメリケン粉、髪の毛にDDTの粉をふりまいたような山姥(やまんば)娘もいず、静かだった。ただ、お疲れモード一杯の人の波であった。実は我が名古屋も同じ。不景気のせいもさることながら、星野獣醫の去ったドラゴンズ、Bクラスの広島カープ、忘れた頃に始まったシラケきつた関東の日本シリーズ、元気の出る要素なんて何もないんです。

二 五年には愛知万博が開かれようとしているが、盛り上がりつつあるのは県庁周辺のみ。ビジネス街、飲み屋街もヒソソリ。ビール一杯30万円の罰金の効果だけではないようだ。その代わり名古屋市のド真中の白川公園にズラッと並んだホームレスのブルー

テント村は盛況、年々その数を増している。そこいらの難しい世相分析は、この12月8日(日)の東海支部の冬期懇親会に出席する秀才達に聞くことにする。等々ブツブツと考へながら駅からチンチン電車に乗り、川を二つ渡って広島支部の総会に出た。



話は良かった。浜田君は一人

いつもながら準備万端、感心させられた。そして、すばらしいファッショセンス、溢れるような知性と教養、花が咲いたようなスタイルの方々は、誰もいず、卒業来ウ十年の中高年の集まりであった。今回の特別講師は小生と同級生の37回浜田英生君ということで、40年振りの再会であった。写真は同級生3名のショットである。昔の面影など誰れもない。ヨタヨタである。

同級生の再会ということで話は弾んだが、3人集まれば、だいたいが病気の話や、「誰それが死んだゾネ」のニューズである。年はとりたくないと思いつつ広島を後にした。新幹線に遅れそうなのでタクシーにチップをはずんで飛ばしていただいた。そして新幹線は40分遅れていた。広島はそれでも静かだった。

関西支部だより

支部長 川崎美栄子(42回生)

関東支部のみなさま、ご機嫌いかがですか?秋に入って関西の景気の冷え込みは一層きびしく、毎日のようにシャッターが閉まるお店が出て、タクシーは長蛇の列をつくり、私のあずかる診療所の患者さんにも職員の家族にもリストラの風は容赦なく吹いています。

関西支部では3月23日の総会で永野前支部長より私、川崎がバトンタッチして以来、大きいイベントはありませんが、4月23日に阪急グランドビル「司」におきまして慰労会を兼ねた幹事会を会費制にて行いました。この幹事会におきまして、事務局の膨大な仕事のうち経理に関する部分を32回山下成子さんに分担していただくことにしました。

また来年の新年総会は場所を変えて、神戸ホテル・オークラにおきまして1月25日の17時より行っことを決定しました。あわせて神戸の観光も遠来のかたがたにお楽しみいただけるよう企画したいと考えております。ホテル・オークラには特別料金でお泊まりいただけるよう同ホテル勤務の42回竹下幹事長がご案内いたしますので、ご連絡ください。

つい最近、金誌「なんぶつ」最新号が発行されました。お手元に届きましたでしょうか。ごめんなはり線のルボや、新装なった牧野植物園の紹介などが、忙しい方ばかりで大変な中、41回鎌田編集長のご尽力で満載です。お楽しみいただけましたら幸いです。

広島支部だより

会計監査 沖田道子(41回生)

10月26日に開かれまして平成14年度広島支部総会のご報告をいたします。

今年度は講師として37回生の関東支部浜田英生氏をお迎えしました。「ホテルの窓から：経営者としてのおもろ事」と題した講演の前半は、新日鉄という巨大企業と共に歩んだ20年間の、世の中の大きな動



きについてでした。具体的な状況や数字に裏付けられた分析は、戦後の日本の歴史を实地に辿っていると思わせるものでした。その後、社内教育や能力開発といった分野や不動産販売を担当され、現在はホテル経営に携わっていられます。

そのお話の内容は広範囲に及んでいました。教育については、「確かに教育とは砂に水を注いでいるように思えるかもしれない。しかし注がなくては、何も生まれてこない。注ぎ続けよ」という言葉は、浜田さんの教育にかけける情熱を垣間見ました。卒業生として母校に対する思いには熱いものがあります。

又、今回の総会では、池上新校長より母校の近況報告をいただきました。長期的な視野にたつて、様々なビジョンを柔軟に組み合わせ、静かな闘志を燃やしておられます。思う存分、その卓越した指導力を発揮していただきたいと願っております。

翌日は総勢16名で、江田島ツアーへ。江田島の旧海軍兵学校は、アメリカのアナハイム、イギリスのダートマスと共に世界三天兵学校と称され



ていました。現在は、広島港から高速艇で25分・バスで10分の同じ場所に、海上自衛隊の第一術科学校や幹部候補生学校があります。一行は41回生村田章夫第一術科学校総務部長のお迎えを受けました。

早朝と放課後に古鷹山に走って登り降りし、また江田島港での奴隸船と称されるカツター訓練等厳しい鍛錬の江田島での日常をお聞きしたり、さすがに空気がいいのは青空の下、明治・大正・昭和と歴史のある建物を巡りました。教育参考館には海軍関係者の書や遺品及び特攻隊員の遺書や遺品が保存されており深い感銘をつけました。

補足ですが、海上自衛隊のレストランでおいしい昼食を食べながら伺ったところによると、浜田社長率いるホテルニュー神田は御茶ノ水駅より徒歩3分で、戦災で消失しな

かった一角にあります。ホテルの周辺は、蕎麦のかなりやぶそば・神田まつや。ぼたん・いせ源・松榮亭・竹むら・シヨパン等々、知る人ぞ知る老舗の宝庫。又秋葉原電気街へも徒歩3分です。高知や広島からのお江戸散策希望の人にホテルニュー神田を紹介すれば、喜ばれることつけあいです。東京でのクラス会は、ぜひホテルニュー神田(TEL 三・三三二五八・三九二)で。

来年の広島支部総会は二年10月25日に講師に山中和正関東支部副幹事長をお招きして、世界遺産歴訪の旅のお話をお聞きする予定です。また広島支部をお訪ねください。

香川支部だより

事務局長 武山止人(40回生)

関東支部の皆さん、こんにちは。香川支部では、毎年七夕の頃、7月の第1土曜日を総会の開催日として決めております。今年も7月6日にJR高松駅前のホテルニューフロンティアで、「七夕総会」を開催いたしました。当日は、

関東支部の窪田顧問をはじめ、母校ならびに同窓会本部や他支部からも多くの皆様方に御臨席を賜り、誠にありがとうございました。おかげさまで約40名の先輩・後輩が集まり、盛大な会を催すことができました。

また、今年には特に盛り上がり、ご来賓の皆様方と、サンポート高松のシンボルとなっている全日空ホテルクレメント高松の21階にある「バー・アストロ」において、高松の夜景を見ながら延長戦(2次会)に突入し、昔話や今後の土佐高や同窓会について、時を忘れ話し込んでしまいました。

さて、最近東京でも讃岐うどんが密かなブームのこと。でも、東京に香川では常識の「セルフうどん」はありますか？ うどんの量も天ぷらなどのトッピングもすべて自分のお好みのまま選べて、しかも安くとてもおいときています。香川支部からのお便りには、時折うどんの話がでると思いますが、ぜひ一度本場讃岐うどんを食べにいらつしやいませんか。

ユニセフ「アート・ダイアリー」に 佐々木泰子さん(33回生)の絵が登場

ユニセフ(国連児童基金)は、世界の恵まれない児童の福祉活動基金のため、毎年各種のカードやカレンダー等を発行しています。



収録された佐々木さんの「Our Study Time」

録された絵は、欧米を主とした美術館所蔵の著名画家(ルノール、ピカソ等)の作品がほとんどです

来年二三年の「アート・ダイアリー」に佐々木泰子(ひろこ)さん(33回生)の絵が収録されました。同アート・ダイアリーに収

録された絵は、欧米を主とした美術館所蔵の著名画家(ルノール、ピカソ等)の作品がほとんどです。佐々木さんはこれまで30年間「子どもたちの純粋な「心」をテーマとした絵を描き続けてきたアーティストで、来年の同ダイアリーのテーマが、「教育と子ども」ということで、彼女の作品が評価され、今回の快挙となったものです。佐々木さんによれば、同ダイアリーで彼女の作品を知った国内、海外の方たちから、お祝いと激励の言葉がたくさん来ているそうで、「ご本人は」「これからも純粋な子ども達を描き続けて、少しでも世界を明るくするお役にたてたら・・・」と語っています。

058.1
一教育
1ページとして
入り紙の上
校紙字が
に不なら
から個
14ヶ
き。全1
¥2,21

Children
55 class
around
Japanes
(2P102A)

弘瀬さんを偲んで「宮 潔」(49回生)

弘瀬孝昭さん(37回生・学年幹事)が亡くなられて、はや一ヶ月が過ぎました。故人の御会葬には、近しかつた大勢の同窓の方々にご参列頂き、誠にありがとうございました。

弘瀬さんより一回り年下の、本年(49回生)である私は、同じ石油関連業界に勤めているご縁から、出会いより20年余、弘瀬さんは私にとって常に「兄のような存在」でありました。私の家族のこと、仕事のこと、健康のこと・・・公私を問わず、あらゆることに相談に乗って頂きました。

土佐中高校と同窓会の話になると、思い出話にとどまらず、母校の復活と同窓会の更なる充実・発展に大きな期待を寄せておられました。殊に「野球部の復活」への思いは、愚息(高2)が母校野球部にお世話になっている私以上に熱いものがありました。

昨年後半、入院の末、とうとうクリスマスの日に緊急入院して以来、まさにこの九ヶ月間、弘瀬さんとご家族にとっては、筆舌に尽くし難いまさに「我慢と戦いの日々」でした。

弘瀬さんはほんとうに我慢強く、病魔と戦いながら、ご家族に対してはもとより、多くの同窓仲間にも勇気と感謝と優しさで忍耐、そして家族・仲間のきずなの大切さを教え

た。弘瀬さんはほんとうに我慢強く、病魔と戦いながら、ご家族に対してはもとより、多くの同窓仲間にも勇気と感謝と優しさで忍耐、そして家族・仲間のきずなの大切さを教え



今は亡き進藤さんと酒くみかわす弘瀬さん。今ごろは二人して天国で・・・

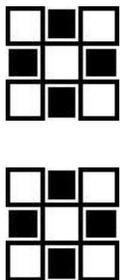
積極的にご本人のご様子を近しい方々にお知らせし、面会をお願いした結果ではござい

ました。が、こつした度重なる同窓・同僚の皆様方の励ましが、弘瀬さんとご家族をどんなに勇気付け、支えになったことか、「弟のような」私よりこの誌面をお借りして、心よりお礼申し上げます。

10月27日、ご実家のある土佐山田町にてご家族により神道・五十日祭と、高知在住の大勢の同級生に見守られながらの納骨を済ませられたと伺っております。合掌。

お悔やみ申し上げます

- 田村孝章(16回) 02・9・25
- 久保内貞行(20回) 02・6・16
- 尾崎正治(28回) 02・6・22
- 秋沢譲二(31回) 02・3・2
- 弘瀬孝昭(37回) 02・9・12



第6回土佐高ハイクの会

那須と日光戦場ヶ原を歩く

沢村武彰 (38回)

今年で6回目を迎えた土佐高ハイクの会は、初日(7月20日、海の日)は那須岳(茶臼岳)登山、2日目は日光戦場ヶ原の散策。メンバーは23回の山下先輩、37回の前田さんと奥様、37回竹内さんの奥様、38回堀内君と奥様、そして38の往年のマドンナではるばる広島から馳せ参じた伊藤さん(旧姓浜田さん)計7名のニューフェイスに、37回の浜田さんが富士登頂以来、同じく尾瀬以来の川崎さんが久々の参加、それに常連のメンバー23名、総勢32名が参加するハイクの会となった。

晴天の「海の日」の朝、新宿西口に集合、8時前に出発。今年のバスは竹内正幹事のお好みか(?)なんとなんと会費の半分は吹っ飛んだと思われるベンツの超豪華バス。首都高速・東北道を一路那須へ。



しばらくはノロノロ運転が続き、「海の日」ぐらい海へ行けよと隣を走る車に文句をいいつつ、窪田君の馬鹿話に耳を傾ける。飛行機でスポーツ誌のソープの記事を読んでいたら、客室乗務員に何を飲みますかと聞かれ「ソ、ソープを」と言った話(豪州のソープが有名になったので、この話あまり面白くない?)

「土佐高俳句の会御一行様」で迎えてくれた那須弁天・大丸で昼食休憩後、百人乗りのロープウエーで那須岳山頂駅へ。那須岳は茶臼岳(一九一

五m)を主峰として朝日岳、三本槍岳などからなる火山群の総称で、今も山頂付近から蒸気を吹き上げる活火山である。

山頂駅で茶臼岳、峰ノ茶屋跡、朝日岳往復の健脚組コース(A班、リーダーは土佐高が生んだ女流登山家野村さん)茶臼岳の周囲を回り峰ノ茶屋跡から茶臼岳登山するコース(B班、リーダーは三宅君)、それと茶臼岳の登山のみのコース(C班、橋田さん)の3つのコースに分け、皆さんこの1年間のトレーニングの成果を試そうと、また、体調



に応じてコースを選択する。

私は、都営地下鉄の長い階段を2、3ヶ月前からできるだけ上り下りするように心掛けていた成果を試そうと、森さん、山下さん、野村さんの先輩連、マドンナ含む若き女性陣等とA班で行動をとともにした。

茶臼岳は、頂上までガレ場が続くが日頃鍛えていればまっこと「しいよい」コースである(山頂駅と頂上の標高差は約100m)。ただ、ロープウエーを降りていきなり心と足の準備が整わないうちに、足元が不安定になるガレ場を上り始めたので、戸惑われた方も多いように思われた。A班は朝日岳往復を計画していたが、登り始めのペースとロープウエーの最終便時刻を勘案すると

ても最終便に間に合わないとの野村リーダーの判断で、峰ノ茶屋跡から茶臼岳を周回して頂上駅へ行くコースに変更した。この判断によりこのあと土砂降りの雷雨にあわずに済んだのは幸いであった。先輩連のペースは上り下りとも安定しており日頃からトレーニングされておられるようである(中島君の風呂場の観察では、37・38連の尻は垂れ下がっているのに、大先輩方のそれはピシッと締まっているとのこと)。また、ウォーキングを心から楽しんでおられる。

絶え間なく水蒸気を噴出している無間地獄の前を通過すると、さすがに島原普賢岳や三宅島の噴火を思い出し自然の脅威を感じる。山頂駅に近



づくにつれて稲光が激しくなり、駅に入る直前で土砂降りになったが、A班のメンバーは幸いそれほど濡れなかったものの、茶臼岳を降りてきたB班のメンバーの中にはずぶぬれになった方もおり、ひとつ間違えば落雷の被害にあう可能性が無かつたとはいえない。来年からは登山する時間帯を考慮に入れ、天気予報をチェックしておく必要があると思う。



1年の出来事を披露しお互いの交流を深める。宴会が終わってから、部屋の一室でゲストの奥野さんを囲んでウルグアイの話聞いて異文化の一端に触れる。

ところで、ここだけの話であるが同窓会事務局長の金澤さんは、茶臼岳の頂上でガレ場のひとつを踏み外し、右足を捻挫、リタイアを余儀なくされた。事務局長の重責と会費の未納が多いことによる心労が原因とか。翌日は元気に回復し、一安心。

翌朝、東北道・日光宇都宮道路を経て中禅寺湖へ。龍頭滝から戦場ヶ原に入り、湯川の流れて逆らいながら、日光白根山を背に、湿原の木道を歩く湯滝まで約6kmのなだらかなコース。昨日と違って、湿原、森林、山、川、滝、池ありで心ゆくまで自然を楽しむことが出来た。途中で鹿にも会えたり。湯元温泉・湯滝から逆コースで来るハイカー（特に小中生）が結構多く、「こんにちは」が途中から5、10人まとめて「ちは」。昼食後、ベントは沼田ICから関越自動車道に入り帰路に着いた。車中では、タコさんの絶妙な司会で、のど自慢



が始まる。恒例の中村さんのモノマネは今年は春日一郎の「山の吊橋」、ミスターカラオケ山口さんは「真夜中のシャワー」、奥方で持つ37・38は旦那が歌わず、奥方が美声を披露する。広島マドンナは「ベサメムチョ」、窪田君は田中角栄のモノマネ・・・。

最後に森先輩の「まだ老いとか長生きを論ずる時期ではない」のお言葉が締めくくった。6時に新宿に到着。帰りの飛行機の時刻を気にしていた広島マドンナも胸をなでおろした。あつという間の36時間で、案内状の文面「浮世の憂さ晴らし、体力の増強、自然への回帰、1年ぶりの再会、新たな発見、思いで作りの先輩・同輩・後輩・ゲストの交

流・・・」が達成されるのがこの会の魅力でしょうか。

（今年のほとんど何もしなかった正幹事）竹内さん、事前に実地踏査して今回のコースを決めた中島君、毎回いろいろご手配頂いている橋田御夫妻どうもありがとございました。来年の幹事は窪田君。俳句を始めたとか。来年は帰りのバスで各人一句披露せよとの厳命がくだるのではないかと戦々恐々（そうなると土佐高ハイックの会?）。皆様また、来年お会いしましょう。



ガーナ便り



ガーナ大使 浅井和子 (35 回生)

女性が頭上に物を載せて歩く姿や、道ばたに大きなヤムイモをゴロゴロ置いてのんびり買い手待っている光景にアフリカを感じ、どこまでも続く野原を見て、なぜ開墾しないのかと思った私も、今ではすっかりガーナ人になったよつです。

やひよこ、羊ややぎと一緒になつて庭だか道だかわからない土の広場を走り回っている子ども達を見て、やつとホツとしました。
ガーナは、ギニア湾に面し北緯5度から11度まで南北に細長く、日本の約3分の2の

領土を持ち、人口一九 万人の西アフリカの小さな国です。昔、黄金海岸と呼ばれていた所で、野口英世の終焉の地であり、ガーナチヨコレートの原料であるカカオ豆の生産地です。

せんでした。今では街には輸入品があふれ、物売りばかりが賑わっています。IMF等は各国の発展の度合いを無視して、彼等の理論である市場の自由化を金科玉条の如く、どの国にも一律に押し付けた為、ガーナは、IMF等の模範生だっただけに、その政策の誤りをまともに受けているのが実情です。自国の産業が育つ前に市場を開放すれば、世界中の安い物がど

の民主政治の確立をしめすものとして、世界中から評価されています。
クフォー大統領が01年1月に引き継いだ当時のガーナは、インフレ率が40%、通貨セーアの価値がそれまでの半分、借入金の元利支払金が国家支出の半分に達するなど、経済はめちゃくちゃだったので、現在は、インフレ率は13%ぐらい、セデーの下落率も10

先日、4ヶ月ぶりに一時帰国して見た日本は、コンクリートジャングル。高速道路が二重・三重に交差し、大小さまざまなビルの間びつしり詰まった家々。路地まで舗装されている。ああ、すき間がなくて息苦しい。



ガーナ大統領と乾杯を交わす浅井大使ご夫妻

緑の葉っぱをたわわにつけた大きな木々の下を通り抜け、にわとり

一九五七年、エンクルマのもと、サブ・サハラ(サハラ砂漠以南)では、最初に植民地(イギリス)より独立を果たした国です。エンクルマが66年クーデターで倒れる迄は、ガーナはアフリカの希望の星と言われ、高度経済成長を邁進するかと思われたのですが、その後、81年12月にローリングス前大統領が軍事政権を樹立するまでは、クーデターが何度か繰り返されたため、経済はもとのもくあみとなり、83年IMFや世銀の関与するところとなりました。
IMFや世銀は、ガーナをその模範国とするべく、構造調整や市場開放を迫り、一見成長しているかに見えた経済は、その実、膨張した借入金を中心に消費財の輸入代金に当てただけで、製造業は育ち



ガーナの金鉱の前の大使ご夫妻。ご主人伴泰氏は30回生。



%ぐらいに落ち着いているよ
うです。但し、クフォー政
権は、その成立直後の01年3月、
世界の債権国・世銀等に対し、
重債務国救済の申し立てを行
いました。いわば、破産の申
し立てをしたのです。日本は
それ迄に貸し付けていた約一
億円を、必ずしも債務
免除ではありませんが、救済
することになっていきます。
(ちなみに、日本は中国に対
し、現在でも毎年、借款を含
め約一五億円の援助をし
ています)。

貧国で、GDPは一人当た
り、四、四
ドル足らず。日
本人の約百分
の一で、国全
体にする、と、
日本の約千分
の一です。但
し、一般の物
価は安く、ガ
ーナ人は1ドル
も出せば十分
な食事ができ
ます。最貧国

ですが、首都アクラは、車の
洪水ですし、コンピュー
ターもあればインターネット
も出来ず。しかし、
最貧国ですので、車で1
時間も走れば、電気も水
道もありません。泥の壁
に藁葺きの家です。いわ
ば、石器時代と超情報化
時代とが同居しています
ので、いたるところで、
そのチグハグさに遭遇し
ます。先進国が徐々に発
展させてきた今日の社会
・経済システム、科学技
術がグローバルイズムと称
して、途上国に容赦なく
押し寄せている状況です。
日本は世界が嘗て経験



独立(一九五七年)の父エンクルマの銅像の前で

したこのないデフレ・スバ
イラルとか。小泉政権がこれ
を克服せんと戦っています
が、当地ガーナにおいても、クフォー
政権が物も金融も市場開放さ
れた途上国経済を進展させる
べく、これも前例の無い戦い
に挑んでいます。
むつかしい、頭の痛い問題
はさておいて、ガーナ人は、
いたって陽気でフレンドリー。
宵越しの金は持たず、貰えば
仲間に分け与えてしまう。
葬式が人生(?)最大のイベ
ント。土曜日には、にぎやか
な音楽に合わせて踊っている
葬式に必ず出くわす。そう、
よさこい踊りがびつたり。よ
さこい踊って仲良くしよう!

思いでの先生方 高崎 元尚 先生

父・高崎元尚

長男 高崎元宏(51回生)

父・高崎元尚はたしか一九
二三年高知市香北町生まれだ
からそろそろ80歳に近づいて
いる。公式な経歴としては、
49年東京美術学校(現東京芸
大)彫刻科を卒業し、54年、
モダンアート協会新人賞を受
賞。58年国立近代美術館の
「抽象絵画の展開展」に若手
作家の一人として選ばれた。
66年、ニューヨークの第1回
ジャパン・アート・フェスティ
ヴァルにも出品。その後モダ
ンアート協会を退会し、吉原

治良率いる具
体美術協会会
員となった。
長らく高知県
美術展立休部
門の審査員を
つとめ、95年
に高知文化賞
を受賞したと
いつことになっ
ている。

日本の現代
美術界を語る
に欠かせない
重鎮らしいの
であるが土佐
中・高校の皆
様にとっては
妙な作品を面
白がる「おか



「しな美術教師」であったり、自転車の整理をしているおじさん教員であったりするのだと思う。
土佐校の卒業生と話をすると、美術の課題に困ってそこから落ちていくゴミを提出したら最高点をもらったなどと聞く。これは複数の人に同じ

ような話を聞いたので実際にそうだったのだろう。なぜ教員をしていたのか不思議な気がするのだが、これはきっと金銭的代償を得られない現代美術作家では生活に困るだろうと考えてくれた土佐校関係者の温かい配慮なのであろう。普通の生活ができるように仕事を与えてくれたことに感謝しなくてはならない。しかし、こういう変な教員が存在し得たということは土佐校の自由な校風の象徴であり、それが土佐校の一番の魅力であると思っている。

さて、我が家は世間から見ると相当変な家庭であったようである。物心ついた時から我が家は「普通でない人々」が集う場所であった。絵描き・詩人・前衛作家、そんな人たちはかりが出入りしていた



16回生集合写真。真中の列の左から3番目



寄宿舎。16回生の食事風景



夏休み。右から2番目が高崎先生、3番目は松浦校長先生



若い頃。東京美術学校時代



自画像。東京美術学校時代の油絵



彫刻。東京美術学校時代の彫刻



油絵。東京美術学校時代の油絵

ように思う。自宅の大半はアトリエと称する物置であり、そこにはキャンバスやそれを固めるポリエステル、それに油絵の具のにおいて満ちていた。作風は一貫して黒のボードに白い四角のキャンバスを規則正しく並べた「装置」であり、これは今でもかわらない。その変な家庭で育った息子が二人とも医者をしているのは不思議なことである。
高齢になった今（孫が二人いて上の子は今度中学生になる）でも毎年個展を開いたり高知県美術展に出品したりとあいかわらず活発に仕事をしている。芸術家は死ぬまで現役が一番なのでこれからも天が与えた寿命が尽きるまで頑張っと思っている。



いごっそう集団旧制高知高校同窓生は今年4月創立80周年記念祭を高知で開催した。



私はいごっそうである。自分ではそう思っている。でも私のある友人は、「おんはいごっそうやないぜよ」という。われわれの尊敬するかの坂本龍馬についても、いごっそうの代名詞のように言う人もいるが、「彼はいごっそうではない。柔軟なものの考え方をしていた」と言う人もいる。何故これほど意見が分かれるのであろう。

手許の辞書をひもといて、「いごっそう」の項目を調べた。大辞林：頑固者。いつこく者。広辞苑：(載っていない)。三省堂国語辞典：頑固で気骨があること。どうも、頑固者と言ったので定説が出来ているようである。一般的には、「いごっそう」からは、「言い出したらきかない頑迷なわからず屋」のイメージが浮かび上がってくる。

ある時、私は山本周五郎の小説「樞の木は残った」を読んだ。伊達騒動の首謀者、原田甲斐の物語である。30年ほど前、平幹二郎の主演でNHKの大河ドラマにも登場した。山本は原田を、史実として語られていたようなお家乗っ取りの大悪人ではなくて、身をもって幕府の陰謀からお家を守った忠臣として描いている。史実を裏側から見ると、著者の創作であろう。あるいは歴史解釈の一説として存在するのかもしれない。私はこの小説に深く感銘し、もし原田甲斐がこの小説どおりの人物であるのなら、彼は間違いない「いごっそうである」と思った。しかし、彼がいごっそうであるという説を聞いたことがない。どうしてだろう。それは彼が

てみた。大辞林：頑固者。いつこく者。広辞苑：(載っていない)。三省堂国語辞典：頑固で気骨があること。どうも、頑固者と言ったので定説が出来ているようである。一般的には、「いごっそう」からは、「言い出したらきかない頑迷なわからず屋」のイメージが浮かび上がってくる。

スマートな 二十四回生 山中和正 いごっそう



土佐人ではないということと共に、いごっそうを感付かれないようにスマートに振舞う

いごっそう考

いごっそう面構え(?)の筆者で使っている。このように言葉定義すると、坂本龍馬は「スマートないごっそう」で郷土の生んだライオン宰相、濱口雄幸は「折り紙付きのいごっそう」である。

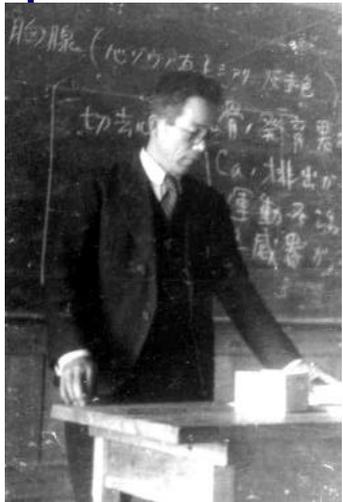
私は、スマートないごっそうに憧れる。何か目標を持ってその達成に努力する時は、何が何でも突き進むのではなくて、危険を回避しながら、そして突破困難な障害に直面した時には迂回してでも、最後はゴールに到達するのが本物のいごっそうだと思っからである。

いごっそうの一言

クラスであった。先生は教壇に立つと、開口一番「私の名前は中山、あだ名はONKAN」と黒板一杯に自分のニックネームを大書して自己紹介し、生徒一同のド肝を抜いた。と言つのも、先生と生徒の格差の大きかった当事、「かます」「へんぽ」「トモチャン」など、先生の面前であだ名を言うことなど、思いもよらなかったことである。中山先生はONKANの意味を「ライオンの如く俊敏に」とおっしゃったように思つ。でも考えてみれば、変なあだ名を付けられるより、自分で名乗ってしまったほうがずっとマシである。「ミスチル」「マツキヨ」など四文字力タカナの呼び名が流行る昨今である。私のおだ名も「スマイゴ」でどうだろう。

だからだと、私は思つ。意図的かどうかは知らないが、結果的には感付かれなかった。スマートと言つ言葉にも、「かっこいい」「賢い」とか言ついい意味で使われるときと、「ずるい」「要領いい」とかの悪い意味で使われる場合とがあるが、私は「さりげない」くらいの中間的な意味

私の土佐中学在学時代の恩師、生物の中山駿馬先生の着任最初の授業は我々の



授業中の中山先生（昭和21年写す）

メトルボツクス

神のご加護で勝った20回目のゴルフ対抗戦

浜田継夫（37回生）

「今回は、弘瀬のオンちゃんの甲い合戦じゃきに、37が勝たしてもらいますきに。」
「純正メンバーを集めきれないような状況じゃ無理じゃねえ」

という朝の挨拶から舌戦は始まった。

何事も長続きすることは難しい。友情も男女の縁も長く続いて始めて本物だといえる遊びであつてもそれが何年も続けば、単なる遊びから違つものに変わって行く。

知る人はみんな知つているが、知らない人は誰も知らない、などというフレーズがはやつたことがあつたが、その種の集まりでもある37回卒業生と38回卒業生のゴルフ・コンペが今回10月13日の足柄森林CCでとうとう20回を記録した。年間2回の開催で始めは年1回程度だつたから、10年以上続いていることになる。

このコンペは、各々の学年が10人つつを立てての団体対抗戦の形式をとつているから

毎回20人が集まつて、闘志を剥き出しにして競い合う。負けると

各々が相手の学年に三千円を支払つ。三千円が惜しいのではなく、負けるのが悔しい。そのため、次は負けま

いと躍起になる。腕で勝てない分は、心理戦争で相手を崩そうとする。従つて、巧みな誘導戦術で後半をめちゃくちゃにされ、涙を飲んだ人の数も

数え切れない。勿論個人戦の表彰は他のコンペと同様である。

土佐高をでているといふことは、野球に代表されるように頭脳ゴルフが展開されるといふことを意味して

おり、他人のミスショット（不幸）を喜ぶこと

などは、あたりまえ、褒め殺し、深手に塩をなすりこむよ

うなコメントなども当然覚悟しておかなくてはならない。二丁寧に「あんたのフォームのここが悪いぞネ」というよ



うな親切なアドバイスをいただくこともあるが、それも大崩れを誘つワナであつたりも

する。ハンデの多い某選手が、前半を40台前半のスコアで上がつつても優勝間違いないしと誰もが思つていたにも関わらず、後半大たたきをしたのもランチタイムにさんざん褒められ、ごんごんと酒を飲まされたのが致命傷となつた。これはいまだに優勝からは見放されている。

学生時代のスポーツ対抗戦の延長がたまたまゴルフになつただけである。もと野球部もと水泳部、ソフトボール部剣道部 バレーボール部など、出自は多様である。学生時代の刷り込みが効いているせいか、対抗戦はなぜか燃える。

今回は37が6対4で勝ち、通算で、8勝9敗3分けとなつたが、戦績も拮抗しているのである。

もう卒業後40年を経過しているから、58、59才という人々である。多くは頭で考えることを容易には体現できない年齢にきている。だから心理的な要素がマイナスイ面に働くとミスがミスを呼ぶ、そこに面

みもある。プレー終了後長い時間をかけて各人の挨拶がなされ、雄弁な幹事や饒舌

な同僚が懇切丁寧な心理分析をおこなう。それがわかつているが故に、なおさらプレーに影響がでる。

毎回純正メンバー100%で臨むこともできないので、学年に関係なく、先輩・後輩に援軍をお願いする。今回の20回目は、37回の助っ人が活躍した。

個人優勝は、36回生の安岡洋向さん（助っ人）、身体をばねのように撓め、ネジのように回転させて球を打つ。よく飛ばし、安定感がある。グロススコアは84、ネット70で堂々の勝利であつた。安岡さんは今回が4回目、初回がグロス100であつたことを考えるといまだに進歩・発展しているゴルフである。とて

も60代とは思えない体力・気力である。37幹事の人選は見事に成功した。

準優勝は、橋田正幸夫人の恵美子さんと、ハンディ26ながら、グロススコア98を出し、ネット72のパープレーであつた。橋田夫妻のゴルフに関する情熱は他の追随を許さぬものがあつて、お互い練習また、本番をともししている鴛鴦夫婦として、有名である。橋田夫人はこのコンペでは通常1

10台を記録しており、どちらかと言つと幹事である橋田君が「捨石」的に仕方なく出場させた感じもあったが、長年の切磋琢磨の甲斐あって、堂々の90台を達成した。37としては、予想外の大健闘であった。かねてより、「女房に負けたら、クラブを捨てる」と公言している橋田くんより僅かに2打多かつただけである。「クラブを置く時期はもうそう遠くはない」というコメントが38からあったのは、彼女の実力が花開いたことを意味しており、橋田君の一層の努力を期待したい。

窪田秀忠107(83)
橋田恵美子98(72)O...X永野博子104(86)
森 健114(84)O...X片山直久100(88)
安岡洋向84(70)O...X南勝次郎95(77)

今回は実力者と言われる人々が、意外と悪かつた。それと組み合わせの妙味(コレにより勝敗が左右される)により「楽勝ムード」で臨んできた38が予想外の敗退をしたともいえる。プレー後のコメントに「いまいち迫力が無かつたのは、饒舌で鳴る38の落胆ぶり」を示している。

「まあ、今回は弘瀬のオンチャンのこともあって負けキャラにやあしうがないわや」
「こんどは私らアも、1、2週間間前に練習ラウンドをやつて来るわネ」

というような話が出ていた。「今回は期待してもらつても良いと思います」というメールを38の仲間に出していた羽方君も1点差で敗れたし、ハントイの少ない片山君が前半56と大きく崩れたのも計算外であつたろうと推測する。いつもは堅実無比で多くの男を泣かしてきた永野女史が、橋田恵美子さんと女性対決になつ

て女の武器を使えなかつたのも敗因の一つかもしれない。37は2週間前の9月28日に純正メンバーで練習ラウンドをこなし、その際大雨に降られた。スコアもさんざんであつたが、そこで悪さを出し切つたのが良かった。勿論神道葬で大人ウシとなられた弘瀬君のご加護があつたことは言うまでもない。

37回生の弘瀬君が前立腺ガンのこの9月に早世したことには、土佐高出身の多くの方々を知っていることと思う。その彼も以前はこのコンペにはほとんど皆動していた。00年4月のコンペを最後に足が痛むようになってからは参加できなかつたが、いつもこの対抗戦の結果を気にかけていた。「もついつべん元氣になつてゴルフをみんなやりたい」と病室で語っていた姿が目に浮かぶ。あちらの方でゴルフ場の予約をして待つていてくれるとは思つが、もうちょっと待つていてもらわねばと思つ...

いずれにせよ、37が勝てたのは神が味方した。38の「口」も「神」には勝てなかつた。

小料理 赤坂「土佐」
港区赤坂3-13-2 アダンビル 4階
電話 3586-9454

季節のふるさとの味 土佐酒蔵

銀座7-12-4 友野本社ビルB1 電3545-3855 銀座第一ホテル通り

[母校及び同窓会本部・各支部一覧表]

- 土佐中学・高等学校 / 土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10 (TEL)088-833-4394 (FAX)088-833-7373 (E-mail)tosako@mb.inforiyoma.or.jp(HP)http://www.inforiyoma.or.jp/tosabog/
- 土佐中学・高等学校同窓会香川支部 事務局長 武山正人(担当:野村喜久)〒760 8573 香川県高松市丸の内2-5四国電力(株) (TEL)087-821-5061 (FAX)087-826-1074 (E-mail)nomura11741@yonden.co.jp
- 土佐中学・高等学校同窓会広島支部 事務局長 山崎迪子 〒732-0062 広島市東区牛田早稲田1-24-7-210 (TEL)082-227-2656 (FAX)082-732-0062 (E-mail)myamazaki@do2.enjoy.ne.jp(HP)
- 土佐中学・高等学校同窓会関西支部 事務局長 中山真知子 〒590-0006 大阪府岸和田市春木若松町5-7 (TEL)0724-44-5278 (FAX)0724-40-3378 (E-mail)nakayamatm@hottmail.com(HP)http://www.tosa-ko.org/kansai/
- 土佐中学・高等学校同窓会東海支部 事務局長 南 毅 〒460-0024 名古屋市中区正木3-13-13ビル新金山1階 (TEL)052-332-3370 (FAX)052-332-3372 (E-mail)knz@mta.biglobe.ne.jp(HP)http://www.sun-inet.or.jp/~bunmura/

★出版レジャー★

大原健士郎 (24 回生)
「職員室の心の病」

講談社 六八 円 2002.08

黒鉄ヒロシ (41 回生)
「幕末暗殺」

PHP 研究所 八三八 円 2002.08

塩田潮 (40 回生)
「郵政最終戦争：小泉改革と財政投融资」

東洋経済新報社 一六 円 2002.08

田島征三 (34 回生)
「人生のお汁」

偕成社 一四 円 2002.10

田島征彦 (34 回生)
「ピロちゃんを食べた。」

飛鳥出版室 一六 円 2002.06

野田正彰 (37 回生)
「させられる教育：思考途絶する教師たち」

岩波書店 一七 円 2002.06

坂東真砂子 (51 回生)
「夢の封印」

文芸春秋 一三三三 円 2002.05

森岡浩 (55 回生)
「日本名字家系大事典」

東京堂出版 四八 円 2002.07

高遠裕子 (60 回生) 「訳」
「グローバリゼーションの終焉：大恐慌からの
教訓」

日本経済新聞社 二五 円 2002.07

西村繁男 (40 回生)
「絵で読む広島」

那須正幹文 福音館書店 二六 円 1998.04

ここからは雑誌に掲載されています

大原 健士郎 (24 回生)
「MEDICAL ESSAYS (東京慈恵会医科大学精神医学講座) 開講百周年記念祝賀会」
日本医事新報 4078 62-64 2002

「人間、元来怠け者 やる気を引き出す10カ条 (夏の特集 職場を精神分析する 上司と部下の心理学)」
Hiroshima 80(35) 98-100 2002

黒鉄 ヒロシ (41 回生)
「片道のGOGO 「トッホ展」 特別寄稿」
道新today 30(8) 84-89 2002

塩田 潮 (40 回生)
「Focus政治 民主党首選の行方。鳩?菅?野田?いずれも否めぬ迫力不足」
週刊東洋経済 5780 96-97 2002

「Focus政治 郵政法案成立。本丸は3事業民営化。不可欠な国民の理解」
週刊東洋経済 5773 132-133 2002

「Focus政治 小泉首相のしごとを。ライバル潰しの達人だが、小泉離れは加速」
週刊東洋経済 5767 102-103 2002

「Focus政治 ポスト小泉の行方。慎太郎か鳩山か。やっぱり小泉か」
週刊東洋経済 5760 94-95 2002

「新世紀の風貌(53) 「塩爺、八十歳」老人力の秘密 日本一忙しい老練政治家の素顔とは。最後の御奉公」を追って」
プレジデント 40(10) 10-17 2002

「検証/小泉政権第二幕の現実(結) 普通の首相で終わるか 改革宰相 を全うするか 税制改革と郵政民営化で一気に決着を挑む」
リーダー 15(4) 62-65 2002

竹内 靖雄 (29 回生)
「いまこそ経済思想の巨人・フリードマンを読み直す(総力特集 不況「秋の陣」への処方箋)」
現代 36(10) 225-231 2002

坂東 真砂子 (51 回生)
「インタビュール 深層心理を暴いた自伝的小説」
本の旅人 8(4) 4-9 2002

森崎 初男 (41 回生)
「経済学・経済政策(コンサルタント養成セミナー) 経営診断ポイント講座(18)」
企業診断 49(8) 112-114 2002

「経済学・経済政策(コンサルタント養成セミナー) 経営診断ポイント講座(17)」
企業診断 49(7) 119-121 2002

「経済学・経済政策 生産技術と最適雇用(コンサルタント養成セミナー) 経営診断ポイント講座(15)」
企業診断 49(5) 111-113 2002

岡村 甫 (32 回生)
「研究と教育 高知から全国そして世界に貢献する人材の育成」
La International 39(7) 50-53 2002

出版レーダー検索裏話し

谷口瑞江 (67 回生)
(東大先端科学技術研究センター図書掛)



出版レーダーでは同窓諸先輩方の新刊図書と雑誌に掲載された記事についてお知らせしています。検索は専らインターネット。新刊本はTRC図書館流通センターのサイトにある新刊書籍検索を使っています (http://www.trc.co.jp/trc-japa/search/trc_www.asp)。ここでは1980年1月以降に出版された日本の新刊書籍を検索できます。雑誌記事については国立国会図書館が作成している雑誌記事索引データベースを活用しています。このデータベースを私が勤める大学図書館が契約しているため、関係者として利用できる状態なのですが、10月からは2002年以降の記事は一般に公開され、国会図書館のホームページから何方でも検索できるようになりました。(NDL-OPAC: <http://opac.ndl.go.jp/>) また、大学等の研究機関に所属する方もいらっしゃるのNACSIS Webcatを使うこともあります。(<http://webcat.nii.ac.jp/>) このようにいくつかのサイトから検索しているのですが、検索自体はとても簡単です。ぜひお試しになってください。